

〔東海道名所記三〕鞠子より岡部まで二里

まりこ川を渡るとて、樂阿彌かくぞよみける、

駄賀馬のくつをもたかく蹴あぐるはまりこの川の水のしらなみ

〔東海道名所圖會四〕安部川

此河大井川に雙びて、歩渡りの大河也、満水の時は、河止ありて旅人の難とす、

〔萬葉集雜歌〕春日藏首老歌一首

燒津邊吾去鹿齒駿河奈流阿倍乃市道爾相之兒等羽裳、

〔萬葉集略解十四下〕駿河内屋ノ坂ノ東ニ阿部川有、卷三阿部の市道とよめるは此河の東なり、

〔類聚三代格十六〕太政官符

應造浮橋布施屋并置渡船事

一加増渡船十六艘○中

駿河國阿倍河三艘○元一艘、今加二艘○中

右河等崖岸廣遠不得造橋仍增件船○略○中

承和二年六月廿九日

〔東海道名所記三〕府中より鞠子まで一里半

あべ川 河は歩涉り也

〔東海道名所圖會四〕富士川

駿河富士郡にあり、○中道中第一の急流なり、河の幅、水の増減によつて際限極らず、常流には船わたし、満水には船とまるなり、

〔海道記〕十四日〇貞應二蒲原を立て、○中富士川をわたりぬ、此河中にこそ石をながす、巫峽の水